

全世界に行って

シスター ルイザ ゴリ

8月15日、「聖書と典礼」のパンフレット、コロナウイルスによる世界と日本の状況について次のように述べられています。

「今年に入ってから、世界中の人々がともに新型コロナウイルス感染症という大きな危機を経験しています。日本でも3月初めに全国の学校が休校となり、次第に、感染される方、亡くなる方の数が増え、続々と、世界中の苦難が報道されました。人との接触が制限され、教会でのミサも行うことができなくなり、わたしたちは深い不安や心配の中を歩きました。」

9月になっても、世界と日本の状況は変わらないどころか、一段と深刻になりました。不安と心配の中の歩みはまだまだ続くようです。

今、平日のミサの集会祈願として、つぎの祈りも唱えています。

「全能永遠の父よ、
苦難のうちにあるあなたの子らの、心からの願いを聞き入れ、
危機から救ってくださいるのはあなただけです。
苦しむ人にあわれみのまなざしを注ぎ、
亡くなった人には永遠の安息を、嘆き悲しむ人には慰めを、
病氣の人にはいやしを、死を迎える人には安らぎをお与えください。
医療に従事する人をカづけ、指導者に知恵を授け、
愛を持って援助の手を差し伸べるすべての人を、勇気づけてください。
わたしたちがあなたの聖なるみ名を共に賛美することができますように。」

具体的で、分かりやすい祈りです。コロナウイルスのためにさまざまな困難に直面している人と、全世界で救いを待ち望むすべての人を心にとめましょう。

10月は、伝統的に、聖母マリアを大切にする月であると同時に、世界宣教の月でもあります。聖母マリアを仰ぎながら、苦難の状況の中を歩んでも、主イエスが私たちに与えて下さる確かな希望をよりどころとしましょう。「わたしが信用している方が、誰であるかを知っています。」(2テモテ、1.12)、と聖パウロが語っています。この揺るがない信仰を持って、苦しむ人に心を開くなら、「全世界に行って」という主イエスの招きにすでに応えているのだと言えるのです。